



“いきいき” 私のボランティア生活

一昨年、病院ボランティアをスタートさせるに当り、ボランティアの募集を知りました。

私は市外の者ですが、私の街からも毎日多数の方々が当病院に通院(入院)しております。このような事もあり少しでもお役に立てたらと言う事と、退職後、人との交わりが少なくなったために、人の中に入ってお世話させていただきたく適度の緊張感を持つ事も必要かと参加させていただきました。

私は今、週二日を目標にして活動させていただいております。毎日が日曜日の生活から週二日のボランティア活動を中心とした生活サイクルになり、身体的にも精神的にもプラスになっていると考えております。

さて、一月からスタートしましたこの活動も丸一年を迎えました。ボランティアの人員が少ないために限られた活動になっておりますが、多くの患者さまから、「お早うございます。」「ご苦労さま。」と声をかけられ、活動が認められている事を感じ非常に励みになっております。



病院ボランティア
いしい きよし
石井 紀代志さん



病院ボランティア研修会の様子

私達ボランティアは一定の“きまり”を定め、これに基づいて活動しておりますが、基本は患者さまが安心と信頼をもって医療を受けていただくことにあります。

機械での受付は、高齢になる程不安の様子でした。今でも最初から依頼される患者さまもありますが機械相手に奮闘されている状況を常に見ながら、お手伝いさせていただいております。車椅子は利用される患者さまが多くなり、時には一台も無くなる事があります。総合案内の看護師さんの指示を経て救急外来及び各病棟に借りに走るわけですが、エレベータが待てなく階段から持って降りることもあります。この度車椅子を数台増やいただきましたが患者さまにご不便をかけないようにまた走ります。案内で一番の苦手は売店の説明です。私は耳鼻咽喉科前

の階段を利用するようお伝えしますが説明者も迷います。

以上活動の一端ですが、笑顔で接しているか、言葉づかいはどうであったか、反省することも多々あります。これからも初心にかえり、職員の皆さまと連携をとりながら、患者さまに安心していただけるボランティア活動を続けて行きたいと考えております。

病院ボランティア募集中!

地域の皆さまと病院の心をつなぐ活動に参加してみませんか?

活動内容

- ①受診時の受付やお見舞い客に関するお問い合わせ
- ②外来患者さまの車椅子介助
- ③病院施設の案内

活動時間

午前9時から正午まで
随時募集をしていますので、お気軽にお問い合わせください。

詳細・申込:看護部長室(内線400)



新患者さまの受付をお手伝い



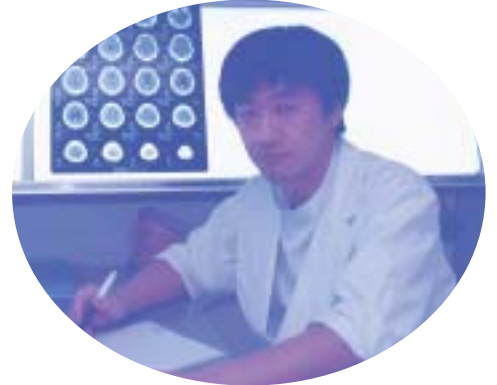
特集1

病気のお話 『脳卒中』

脳卒中は高血圧・糖尿病・高脂血症・心臓病・喫煙・大量飲酒・高齢者の方に起こりやすいといわれています。これらの中で高血圧、糖尿病、高脂血症は生活習慣病といわれ生活習慣の改善によりある程度予防できると言われています。これらの生活習慣病を予防することにより脳卒中も予防できることになります。

次の症状には要注意！脳卒中の特徴は症状が突然出現することです。

- 1) からだの片側の顔、腕、足に突然脱力や痺れが出現する。
 - 2) 突然目が見えなくなったり、物がぼやけて見える。特に片目に起こる。
 - 3) 突然言葉がしゃべれなくなる、話をしたり、言葉の理解ができなくなる。
 - 4) 突然の激しい頭痛。
 - 5) めまい感、ふらつき感や突然の転倒、特に1)～4)の症状を伴う。
- 上記症状が出現したら速やかに医療機関を受診することが正しい対処法です。



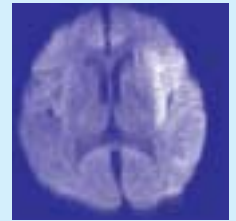
脳神経センター
脳神経外科医師 高橋 明

脳卒中は大きく分けて 脳梗塞 脳出血 くも膜下出血の三つに分けられます。

脳梗塞（脳の血管が閉塞する病気です。）

多くの患者さまは手術せずに治療が可能です。しかし閉塞血管が太い場合手術治療が必要になることがあります。

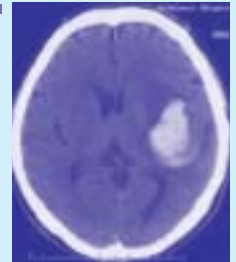
- 1) 血栓溶解術 2) バイパス手術 3) 血栓内膜剥離術
- 4) 経皮的血管拡張術 5) 外減圧術 など



脳梗塞(頭部MRI)

脳出血（脳の血管が破綻して脳の中に出血する病気です。）

出血量と患者さまの症状によって手術の適否が決まります。出血量が多い患者さまは手術をしなければ助からないことがあります。当院では手術をしないで治療をする脳出血の患者さまのほうが多いです。

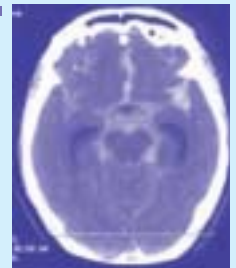


脳出血(頭部CT)

くも膜下出血（脳血管に動脈瘤ができて、これが破裂して出血する病気です。）

多くの患者さまに手術が必要です。出血の原因となる脳動脈瘤の処置をしなければ多くの方が亡くなってしまいます。ただし瀕死の状態である場合や、出血源が特定できない場合には手術をしないこともあります。

- 1) 脳動脈瘤クリッピング 2) 脳動脈瘤塞栓術 3) 脳室ドレナージ術 など



くも膜下出血(頭部CT)

脳卒中は多くの場合後遺症を残すので、脳卒中になってから治療するのではなくて脳卒中にならないように予防をしなければなりません。脳卒中で後遺症を持っている方でも残っている機能をうまく生かして生活を楽しむことができます。たとえ症状が残っても決してあきらめず努力することが大切だと思います。また、ご家庭でも少しの手伝いで、より良い生活を送れる患者さまはたくさんいます。身内の方が脳卒中になった場合には、少し脳卒中や介護のことを勉強するだけで患者さまの役に立ち楽しい家庭生活を送ることができます。

脳卒中にならないためには
どうしたらいいの？



生活習慣病を予防することが
大事なんだね！